

種名	カイツブリ Podiceps ruficollis 													
分類	カイツブリ目 カイツブリ科													
特徴	潜水が巧みな茶色っぽい小さな水鳥。オセアニアとアフリカ、ユーラシア大陸の主に温帯に棲息し、日本でも全国で繁殖するが、北日本のものは冬になると暖地に移動する。													
生活	おもに平野部の池、湖、沼に棲息し、秋冬には川の下流域でもよく見られ、稀に海にでることもある。カイツブリ類は足指にひれ状の弁がついており、それで水をかいて巧みに潜水する。カイツブリでは最長 25 秒ほど潜ることができ、魚の他水棲昆虫もよく捕らえ、ヒシの実のような植物質の餌もとる。繁殖期にはつがいで生活し、ある範囲の水面を縄張りとする。たくさんの水草の葉や茎で水面に浮き巣を作る。巣の水面に出ている部分は皿形だが、その 5～6 倍の厚さがある水面下の部分は逆円錐形をしている。繁殖期は長期に渡り、2 月頃幼鳥が見られることもある。卵数は 3～6 個、抱卵日数は 20～25 日位である。雛は孵化後すぐに泳ぐことができるが、しばらくは巣に留まる。背中に雛を乗せた親鳥をよく見ることがある。													
声	繁殖期の初め頃には、「キリッキリッキリッ、キリリリリ」と高い声で鳴いて、縄張りを宣言しているのをよく聞く。また、縄張り争いの時にもこのような声をよく聞く。そのほか「ピッ、ピッ」と短く鳴いたり、「フィリリリ」と美しい震え声で鳴く。													
見分け方	首が短く尾も短いので、丸っこく茶色い鳥に見える。各種の図鑑で冬羽とされているものは若鳥であり、成鳥は冬も繁殖期と同色という意見もある。													
時期：寒地	(月)	-	-	-	4	5	6	7	8	9	10	-	-	
：暖地	(月)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
その他	全長(L)26cm 翼開長(W)45cm													
参考文献：山溪カラー名鑑 日本の野鳥														